

月刊

GPP



Vol.54

令和2年4月号

株式会社
グロースパートナーズ

10年後、「あのコロナが契機だった」と言っているはず

実は会社で3月末の日経平均予想レースをしていたが、ぶっちぎりで勝たせて頂いた。しかし、5月末との合わせ技なので、いまだ勝利確定とはなっていない。

セルドロン事業は波に乗りかけてきただけに、ここでの停滞はもどかしい。大手ゼネコンへのデモだったり、共同研究を進めたり、顧客への説明の機会が延期されていて残念。ちょうど、NETIS登録されるタイミングなのでなおさらである。ただ、きっとこれも何かのご縁。暫し停滞はするであろうが、この間に色々見えてくることもあるであろう。

そんな在宅勤務を強いられているコロナ騒動の前から“働き方改革”が叫ばれている。働き方改革の目的は「効率を上げる」ということであり、残業を減らすことでも、有給を消化させることでも、稟議書の判子を減らすことでもない。最適な効率化を簡単に言うと、中間マージンを取っている企業を飛ばすことである。中間マージンを取る企業があるから、一社当たりのマージン、つまり付加価値が少なくなり、結果個々の所得が上がらず、デフレから脱却出来ないのである。確かに、営業のやり方が分からなかった、代金回収の術を知らなかった、まして海外取引なんかさっぱり分からなかった。だから商社・問屋が必要だった。この時代も本当に必要か？

2～3年前に、「三井物産は社員の国際化を意識づける為に顧問として佐藤可士和氏を招聘」という記事を読んで、大手商社の終焉を感じた。時間の問題である。この時代に、ましてやこれからの時代に、こんな会社に頭を下げてマージンを取ってもらう必要はない。その事業で主導権を持つ会社が、大きな商社や問屋にすぎることなく、自らが実行することでその会社の付加価値を増やし、人材を雇用して、拡大していく。これが働き方改革の本質だと思っている。

また、話はコロナ騒動に戻るが、議員の歳費・給与削減がチラホラ話題になってきている。根本の話は、個々の支給額でも下げ率でもなく、とにもかくにも絶対数、つまり議員数を減らすことだと考えている。

現行の議会政治は昭和21年に衆議院466名、参議院250、合計716名で始まり、現在は衆議院480名、参議院242名、合計722名である。

この時代も本当に必要か？議員数を絞って、一人当たりの報酬を引き上げれば、優秀な人材も出てくることであろう。1/5の140名ぐらいでどうか？

10年後には「あの時のコロナが転機だった」と思っていたい、在宅勤務の今日この頃

藤井 成厚

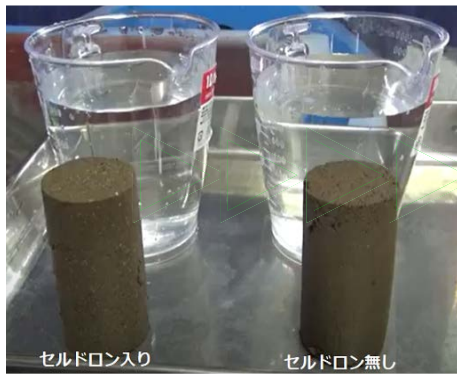
発行：株式会社グロースパートナーズ

セルドロン はてな???

セルドロンでよくある問合せ

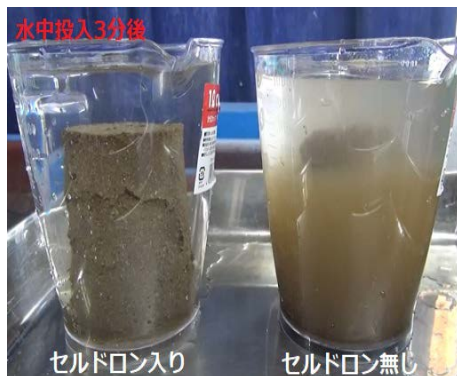
「水中でも崩れにくい!？」

セルドロンを活用する前によく聞かれることは、浚渫土のような水分を多く含んだ土を改質し再利用した場合、雨水などで水分をまた含んだ時にどうなるの?という質問です。セルドロンは、物理的に水分を吸着する材料なので、一定量以上の水分を吸着してしまうと再泥化することもあります。しかし、ある程度の固さに締固めをすることによって透水性が悪くなり、水の吸着を悪くすることが可能です。以前に、セルドロンを混ぜた土と混ぜていない土を水中に沈めて様子を確認する実験をしております。



水中投入直後

水中投入1分後



水中投入3分後

水中投入8分後

セルドロンを含んだ土は、水中に投入しても多少の崩壊はあったとしても、約8分程度現状を維持していた。セルドロンが入っていない土は、水中に入れてすぐに崩壊が始まり、土粒子が舞い上がっているのが分かる。この実験の結果から、ある程度の締固めをしてあげることにより、再泥化をさせることを防ぐことができると考えられます。

添加量の目安は?

セルドロンの添加量を問合せいただくことが多いです。水分量やどのような状態まで土の固さを希望するかによって添加量はことなります。

今までの採用事例は、30~100kg/m³まで幅広くあります。

実際には、室内試験をして配合を検討いただくことになります。

その他何か質問等ありましたら、お気軽に 営業担当 土井 までご連絡ください。